

メモ

1) 浮田委員長案——委員各自が意見を広報誌等に披露するという件

各自が書くべきアイデアを自分で整理する必要あり。また全体として統一感を出すことも必要。かといって、あらかじめ協議して調整するのでは、あまり面白いものにならないかもしれない。とにかく整理するための時間が必要。

2) (上記(1)の点とからめて) エコショップの存在を取材を含めて広報。

エコショップであることの利点は何か？

資料には表彰、広報、活動支援とあるが、現実にどれだけのことなのか？

あまり知られていない気がするので、拡張のためにはエコショップの確かな利点が必要(顧客が格段に増えるとか)。

3) 量的に大きい事業所系のごみ削減が肝心と思われるが、事業所といえども基本はそこに働く従業員各個人の問題と捉えれば、まず家庭系のごみ削減徹底とエコショップの拡大の連携効果を狙うべきでは？

(普段の意識が自然に仕事につながることを前提。)

そのためには家庭系ごみについて、個人のどういう意識を刺激すれば、仕事の意識につながるのかを検討する必要あり。(特に男はしごとと家庭をつなぎにくいのでは?)

家庭系と事業系とで違いは何か? 単なる量の差か? 質に違いがあるか? 質に違いがあるとすれば、どうすれば家庭系のことが事業系への連想に結びつくか?

家庭系生ゴミ

1) 他の地域で実施されている紙製の生ゴミ袋について

紙製の生ゴミ袋が島根県松江市で使われています。かなり小さいものですが、家庭のゴミの量の標準的量として十分な大きさなのだろうと試してみています。一つの単位として捉えると、各家庭で自分のうちの生ゴミの量の「多い少ない」という感覚を持ってもらって削減意識につなげることができると思います。

i) 紙製の利点について

紙製であることの元々の利点は水分だけを蒸発させる効果とそのためにおいがしにくい(だろうと思っています)のと夏場に日数がたった場合でも虫がわきにくいなどの利点があると思います。この考えをさらに発展させて宇部独自の方式が出せるのではないのでしょうか(ただし松江市ほかどこかがこれに関して何らかの権利を持っているかもしれませんが)。「発展させる」というのは利用する形態のほかに燃料削減により大きく貢献する紙袋の製作を検討することだと思います。

ii) 具体的対策案について

一つは底の部分からの水分発散が十分にできるような対策(たとえば段ボールのような構造を持っていて通気性をあげることなど)によって処理場に持ち込まれた時点で水分量を減らすのと紙がよく燃えることで燃料減(たとえば上記の通気性促進段ボール?は紙の量が増えることによる発熱量の増加が期待できます)につなげることです。現在使われているビニール?のゴミ袋がどういう効果を持っているか承知していませんが紙製との比較からはじめて何か妙案が出るのではないのでしょうか?

2) 家庭でゴミを出す前、処理場までの運搬途中、さらには処理場で燃やす前の乾燥促進法について

以前の議事録に(田中委員のご発言と伺いました)生ゴミの水切り法を考えようという内容がありました。生ゴミをまずよくしぼってからゴミ袋に入れるのは、皆さん実施しておられることと思いますが、洗濯機での脱水の威力をご承知になっているように、何かもう一段水切りの程度をあげることは有効と考えます。手回しでも流しで使えるような遠心分離式の脱水器を考えるとよいと思うのですが、朝ゴミを出すときに面倒くさくない工夫を施しておかないと長続きしない気がします。そういう開発を委員みんなで考えるのも良いかと思います。

事業系生ゴミ

1) 家庭の生ゴミ同様紙製袋を適用することについて

家庭から出る生ゴミを紙袋に入れるとする場合、紙袋は小さくて良いので吸湿および水分発散能力はある程度確保できます。しかし事業系生ゴミの場合小さい袋に小分けして入れるというのは非効率であるとして反対が出るのではないかという気がします。何らかの対策を打って家庭系生ゴミと同様の展開が可能と考えます。大きな袋では、水は自然に

下へ行くということを考えれば、

i)底の面積を大きくする。

たとえば、縦長(高さ方向)の袋にして入れ終わったら横に寝かせることで「底(実際は袋の側面)」が広がります。このとき「底」にする方の側面に家庭ゴミで述べたことと同様に通気性を高める工夫をしておけば、発散量を拡大することができます。広がった「底」が運搬の際に破れないよう補強という意味でも通気性を高める工夫は有効です。

ii)紙に接触する面積を増やす。

たとえば、袋の価格対策は必要となりますが、大きな紙製袋の内側にいくつか「しきり」を設けることで紙との接触面積を増やすことが可能です。ただしもう一工夫しないと通気性の面では劣ります。水分が紙の面内を通じて底へ届くまで蒸発しないので、「しきり」には底の通気性向上策と同様に、鉛直方向に段ボールの構造のような水分が「しきり」の面から上へ向けて蒸発できるようにする工夫が必要です。

2) 生ゴミの絶対量を減らすことについて

「外食」から出る生ゴミは、

a)利用客の食べ残しを減らす運動の展開が一つだと考えます。

似たようなことではありますが、

b)弁当などの売れ残りや賞味期限切れなど売らずに処分される食品についても同様に量を減らす運動の展開が考えられます。

まずはその量についてまたよく出る時間帯について調査する必要がありますが、よく報道されているので、かなりの量が宇部市内でもあるのではないかと考えます。

a)の対策

食べ残しについては「標準量」と同時に「少な目」やさらに減らした「幼児(など食の細かい子)向け」の販売をしてもらうことが考えられます。コンビニ弁当などでは実際にそういう工夫(女性向けということでしょうか)もみられるようです。少なくともそういう意識は一般の人にも強くなってきていると思いますので、やり方次第で受け入れられるのではないのでしょうか。

b)の対策

期限ぎりぎりの物を集めて回るなどして(即食べるということを前提に)うまく流通させる仕組みが考えられないかと思えます。コンビニなどには配送のトラックがかなり頻繁に来ていますからこれを活用して「即食す」食品の流通システムが作れないかと思えます。運動の方法は別途考えるとして、順調に減っている場合に何か業者としての恩典があることが促進につながると思えます。

3) エコショップについては、市民に対して存在と同時にその店がどういうゴミ対策をしているのかについて(とくに各店ごとに対策内容が異なるのであればそれについて)の周知徹底が必要と考えます。さらに利用者がそうした店を利用することの利点を明確にする

ことが必要です。精神論と同時に具体的な目先の利点やおもしろさに訴えることも考えられ、たとえば道の駅などで実施しているスタンプラリーをまねたキャンペーンをエコショップ相互で実施してもらうことも促進策になると思います。この場合エコショップ側にも売れ行きが伸びる可能性があるという利点があるので可能性はあると思います。

4) 埋め立てゴミの減量について

埋め立てゴミは重量で計量されているようですが、体積を減らして持ち込むことも、可能な物については、有効と考えます。もちろん積み上げていく中で自然に十分な加圧作用があるため必要ないとされているのですが、十分に空気が抜けない場合もかなりあり得ると思いますので、数パーセントの体積減にはなるのではないのでしょうか。

城田先生

この e-mail を差し上げるのが大変遅くなり、申し訳ありません。今日 7 月 7 日の審議会の会議よろしくお願い申し上げます。一度電話を差し上げましたが、あいにくお出にならなかったの、口頭でお願いするより文書にして e-mail で差し上げようと考え直しました。しかし、簡単にかつお伝えしたいことを明確にと思いますと、頭ではいろいろ考えるのですが筆が運ばず、当日になってしまいました。お詫びします。結局のところ冗長な手紙にしかできませんでしたが、私が申し上げたいことは以下の通りです。よろしくお願い申し上げます。先日、ごみ減量推進課でお話ししましたこと（そのままではありませんが、同等のこと）を、先生のご記憶にありそうなことと照らし合わせながら、メモにさせていただきました。したがって、この e-mail と添付ファイルはごみ減量推進課宛に c.c. を FAX しておくつもりです、ご了解下さい。

浮田前会長も自分たちで何か行動を起こそうとおっしゃっていました。私もそれに賛成です。ご記憶のことと思います、昨年 11 月の会議の終了時に、浮田会長が「意見があれば次回までに（12 月 1 日開催と予告されました）ごみ減量推進課かご自分のところまで提出するよう」おっしゃっていましたので、考えていたことを 11 月末に FAX でごみ減量推進課宛送りました。12 月 1 日にその件についてごみ減量推進課から何か反応をいただけるものと思っておりましたが、何も触れられずじまいに終わりました。会議の後城田先生と一緒にしました、施設見学の際、移動しながら生ゴミの水分を抜く方法について検討したいことなど話し合いましたし、「これからは打ち合わせをやりましょう」ということにしていましたので、あまり気にとめませんでした。1 月末か 2 月にごみ減量推進課から連絡がありローカルマニフェストに関する報告をしてくださりました。その際私の方から「わかりやすいごみの出し方」について、「概念的な階層性」を充分取り入れたパンフレットにしていたらと、ごみの出し方を検索しやすくなるということを申し上げ、了解をいただきました。同じく生ゴミの件、エコショップの件、事業系ごみの件についてもその席で披露しました。いろいろ反応はいただきましたし、後日また何か連絡があるものと思っておりましたが、先月末に会議開催の案内をいただくまで、何もありませんでした。現状では、ごみ減量推進課がすべて担っておられ、結果的に我々が審議会で議論した内容はその場限りで終わっています。そのために「これからは打ち合わせをやりましょう」と話し合いましたし、12 月 1 日の会議で「毎回テーマを決めてひとつずつ解決できる体制を作りたい」という発言をしましたので、折角、各地域や団体を代表した人たちが集まって議論するので、それが活かされるようにしたいと考えます。是非この点よろしくお願い申し上げます。お忙しい中、遅くなっているいろいろ申し上げて恐縮ですが、なにとぞ城田先生、ごみ減量推進課の方々私の気持ちをくみ取っていただければありがたいです。吟味する時間が無くなったことで妙な表現になっていることをおそれます、ご勘弁下さい。

申し上げたいことを整理しますと、

- ① 審議会は報告事項の承認だけで終わっている。（現在諮問事項が無いからだそうです）

- ② 協議内容は単に意見交換で、意見が何かに役立てられることはない。(推進課が忙しすぎるのだと思います、意見を検討することになれば新たな負担が推進課に及ぶことになります)
- ③ そこで、会議開催に先立ってあらかじめ議論するテーマを設定し、委員への案内に具体的な議題とその概要・検討方針などを知らせておき、実質的な議論となるようにする。
- ④ 会議での議論内容を各地域や事業者の団体に持ち帰り、議論内容がそのまま実践できる事柄であれば実際面に活かされるよう、また工夫や開発を必要とすることであれば進めていき次回披露することができる段階であれば、次回案内が来た時点で推進課にその旨連絡し、審議会で提案する。
- ⑤ 上のような手続きを積み重ねて有形無形の成果を残す。
- ⑥ このようにすれば、推進課が報告内容の作成と審議会での質問への準備をしなければならぬなど審議会は単に推進課の負担になっているだけの現状を改め、推進課の業務の手助けとなるような形にすることが可能と考える。

といったようなことです。

添付資料：添付しますファイルは、11月末にごみ減量推進課宛 FAX しましたものと、もうひとつは（もうしわけありません）以前私が自分用にメモしたもののそのままです。

カーボンコピー： ごみ減量推進課（この e-mail および添付ファイル全て）